小技さえ 岩倉4強

1回岩倉1死2、3塁、関本の犠飛で生還する3塁走者・辻本（捕手・尾藤）

▽準々決勝

小山台	0	0	0	0	0	0	1	0	0
岩倉	1	0	1	0	0	0	0	0	X

2 1

岩倉は初回、死球で出た走者を犠打と犠飛などで生還させて先制。三回にも、手堅い攻めで着実に加点した。先発秋月もねばり強い投球で、小山台の追撃を振り切った。相手と同じ7安打を放った小山台は、八回に3長短打で1点を返したが、10残塁と打線がつながらず、追いつけなかった。

◇神宮球場◇

【小山台】	打数	安打	打点
川川	3	1	0
嘉西	4	0	0
翼崎	2	0	0
藤尾	3	1	0
沢部	4	0	0
赤広	2	0	0
比小	3	1	0
阿杉	3	1	0
尾松	3	1	0
大柳	3	1	0
中口	3	0	0
三遊	1	0	0
計	30	7	1

【岩　倉】	打数	安打	打点
辻	3	0	0
尾	3	1	0
安	2	0	0
竹	2	1	0
関	1	0	0
市	3	1	0
渡	2	0	0
佐	1	0	0
秋	3	1	0
小	2	0	0
駒	1	1	0
酒	2	0	0
一	0	0	0
二	0	0	0
捕	0	0	0
右	0	0	0
中	0	0	0
打	1	0	0
中	0	0	0
投	0	0	0
左	0	0	0
三	0	0	0
遊	0	0	0
計	21	7	2

	6	4	4	1	0	10
	三	四	犠	盗	失	残
小	2	5	7	0	1	7
岩						

▽二塁打　赤川　尾藤（小）

岩倉9年ぶり4強

秋月自己最速141キロ

東京

▽準々決勝

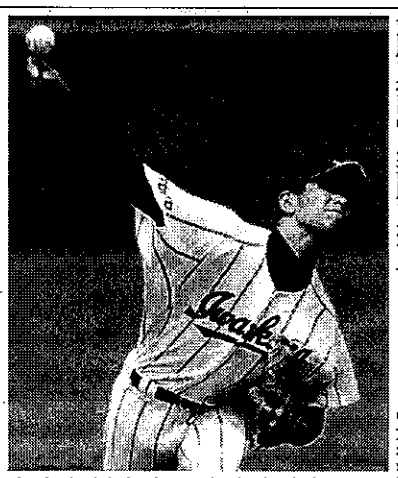
帝京2－1駒大高
岩倉2－1小山台

最後は138キロの速球で見逃し三振に仕留めた。岩倉の背番号7、秋月健太投手（3年）の145球目だった。最後まで疲れは見せず、9回は3者連続三振。自己記録を2キロ更新する141キロもマークした。秋月は「7回ぐらいから自分の投球ができました。最後まで1人で投げるつもりでした」。岩倉に9年ぶりの4強を導いた右腕は、最後まで頼もしかった。

夏にかける思いは誰よりも強い。昨秋、右肩に炎症を起こし、4月中旬まで投球ができなかった。背番号1を失い、主将ながら春季大会は控えの一塁手に回っていた。「1番を失ったことが悔しくて。でもそれがあったからこそ今がある。甲子園では1番で投げたいです」と話した。

初戦の足立新田戦は2安打完封。最高のスタートを切り、肩の不安も消えた。その試合では中学時代に所属した軟式チーム「東京サニーズ」でバッテリーを組んだ岩田拓実捕手（3年）と3年ぶりに再会した。足立新田の主将だった。試合後、千羽鶴を手渡され「絶対勝ち抜け」と激励されていた。「おう、絶対勝つから」と答えた。

この日も試合後には小山台から千羽鶴が贈られた。「負けたチームの分も頑張らないと」。秋月には甲子園まであと2つ、負けられない試合が続く。【米谷輝昭】



小山台対岩倉　1失点完投でベスト4入りを決めた岩倉・秋月

木部147キロ連発 金久保逆転弾

東京

背番号10の木部拓実投手（3年）と背番号11の金久保亮外野手（3年）が活躍し、4強に進出した。木部は自己最速を更新する147キロを連発するなど絶好調。5回戦に続く2ケタの11奪三振と踏ん張り、本塁打による1失点に抑えた。「ブルペンから良かった」と振り返る。7回裏に値千金の逆転2ランを放った金久保は「打撃で貢献できてうれしい。1戦1戦、先を考えずに勝ち進みたい」と、次戦へ引き締めていた。